

BESSHI 住友別子病院広報誌

SMILE

2026.03
Vol.216



特集：内視鏡検査を、もっと身近に



内視鏡検査を、もっと身近に

— 当院の「大腸内視鏡検査レディースデー」の取り組み —

消化器内科 井川 翔子

内視鏡検査は、胃がんや大腸がんをはじめとする消化管疾患の早期発見に欠かせない重要な検査です。一方で、「恥ずかしい」「なんとなく不安」「忙しくて後回しになってしまう」といった理由から、特に女性の受診率が伸び悩んでいる現状もあります。

こうした声を受け、当院では女性の方がより安心して内視鏡検査を受けられる環境づくりの一環として、「大腸内視鏡検査レディースデー」を設けています。

レディースデーでは、検査を女性医師・女性スタッフが対応します。男性スタッフが検査前後の説明などの介助に入ることはありますが、可能な限り周囲の目を気にせず落ち着いた環境で検査を受けていただけるよう配慮しております。「男性の目が気になって、検査に踏み切れなかった」という方からは、「もっと早く受ければよかった」という声も多く寄せられています。

また、内視鏡検査そのものに対する不安を軽減するため、鎮静剤を用いた苦痛の少ない検査にも対応しています。ウトウトしたりリラックスした状態

の間に検査が終わるため、つらさや恐怖感が大幅に軽減され、「思っていたより楽だった」という感想をいただくことが少なくありません。

近年、女性の大腸がん・胃がんは決して珍しい病気ではなくなっています。特に大腸がんは、40代以降でリスクが徐々に高まることが知られており、症状が出る前の検査が非常に重要です。忙しい日常の中ではつい後回しにしてしまいがちですが、定期的な内視鏡検査は、ご自身の健康だけでなく、ご家族の安心にもつながります。

当院のレディースデーは、「検査のための特別な日」ではなく、女性が自然な気持ちで健康と向き合えるきっかけでありたいと考えています。これまで内視鏡検査に不安や抵抗を感じていた方にこそ、ぜひ知っていただきたい取り組みです。

今後も当院では、地域の皆さんに信頼され、安心して利用していただける医療を目指し、検査環境やサービスの向上に努めてまいります。内視鏡検査について気になることがあれば、どうぞお気軽にご相談ください。

Q/ レディースデイはいつ？

A/ 毎月第3金曜日の月1回です。
 ※第3金曜日が祝日の場合は、その月レディースデイはありません。

Q/ 検査を受けるまでの流れは？

A/ 消化器内科を受診していただき、医師の診察を行ったうえで予約をお取りします。
 診察後、内視鏡受付にて検査日を相談しながら日程調整を行います。

- ① 消化器内科受診
 - ② 大腸内視鏡検査
 - ③ 結果説明(検査日に結果説明を行う場合もあります)
- 3回来院が必要になります。

注意

- 大腸内視鏡検査は午前中に腸内を綺麗にする処置を行い午後から検査になるため1日がかりの検査になります。
- 数日前から食事制限や下剤(前処置薬)を服用して排便調整をする必要があります。
- 検査当日は使用する薬剤の影響で自動車、自転車、バイクなどの運転ができません。公共の交通機関の利用やご家族の送迎をご検討ください。
- ポリープを取った場合、1泊入院になる可能性があります。
- ポリープや組織を取った場合は飲食制限、強い怒責や運動、遠出を数日間控えていただく可能性があります。
- 大腸内視鏡検査は件数が多いため、直近で検査日が決まらない場合があります。あらかじめ余裕をもってご受診ください。





臨床工学室

臨床工学室 小野 達也

「医療機器を通じて、患者さんを支える仕事があります。」
透析室、手術室、集中治療室、心臓カテーテル室、内視鏡室。
病院のあらゆる現場で、私たちは今日も、医療機器を通じて
患者さんをサポートしています。

「臨床工学技士」という職種をご存知でしょうか。点滴に使う
輸液ポンプ、心電図などを観察する生体情報モニタ、透析装置
や人工呼吸器、心臓のリズムを支えるペースメーカ、そしてさ
まざまな手術用装置や内視鏡用装置など、患者さんの命を守
る医療機器を専門に扱う医療職です。



私たちは、メンテナンスを通じて医療機器を安全に、そして
当たり前のように使える状態に保つだけでなく、実際の現場
で機器を操作したり、医師や看護師の機器操作をサポートした
りすることで、治療の土台を支えています。

透析室では、患者さんの血液を体外で浄化する装置を操作
しています。また、手術室や心臓カテーテル室では、手術や
カテーテル治療を支える装置を扱い、医師の隣で手技のサ
ポートに入ることもあります。内視鏡室では、検査や治療が安
全に行えるよう、医療機器を通じた支援を行っています。さら
に、輸液ポンプやパルスオキシメータといった身近な機器か
ら、生体情報モニタや高度な専門機器に至るまで、あらゆる
医療機器がいつでも安全に使えるよう、日常点検・定期点検・
トラブル対応といった保守管理を行うとともに、ペースメーカ
など心臓に関わる医療機器の管理やサポートを担うことも、
臨床工学技士の重要な役割です。

このように臨床工学技士は、院内のあらゆる現場で、患者
さんのすぐそばで医療機器を扱っています。また、患者さんの
そばにいない場面でも、使用されている医療機器の多くは、
臨床工学技士が日常的に保守管理しているものです。

医療機器を通じて、患者さんの治療と安心を支えることが、
臨床工学技士の役割です。

医療機器のことで気になることがあれば、どうぞお気軽に
お声かけください。

糖尿病をよく知ろう

(アルコール飲料(嗜好品)について)



糖尿病センター

お酒を飲み始めると自制心がきかなくなり、食事量が多くなったり、つい飲みすぎたりし、血糖コントロールが乱れやすくなります。また、アルコール飲料の過剰摂取は、糖尿病の合併症や肝障害、

高血圧、肥満、脂質異常症などの悪化につながります。

飲酒する場合は、主治医とよく相談し、指示された適量を守って楽しみましょう。

アルコール飲料を飲む時の注意点

- 決められた量を守って楽しみましょう
- 食事の指示エネルギーを守りましょう
- 空腹時の飲酒は避けましょう
- おつまみの摂りすぎに気をつけましょう
- お酒を飲んだ後の低血糖に注意しましょう
- 休肝日を週2日以上作りましょう

適切な飲酒量

- | | |
|--------------------|-------|
| ●ビール 中びん1本 | 500ml |
| ●焼酎アルコール度数(25度) | 110ml |
| ●日本酒 1合 | 180ml |
| ●缶チューハイアルコール度数(5度) | 520ml |
| ●ウイスキー ダブル1杯 | 60ml |
| ●ワイン 2杯 | 180ml |

病院イベント(市民公開行事) 開催月変更のお知らせ

地域連携室 吉田 優子

地域の皆さんへ いつも当院の取り組みにご理解・ご協力をいただき、ありがとうございます。

これまで例年5月に開催しておりました当院の健康イベントは、今年度より開催月を変更することとなりました。地域の皆さんとの交流の場としても、毎年ご好評をいただいています。

今年開催予定のイベントでは、「知って得する介護予防運動・防災教室」や「防災体力向上のヒント」



※生成AIの画像を使っています。

を分かりやすくお伝えし、地域の皆さんと一緒に楽しめる企画を検討しています。

開催月・日程の詳細は、改めて院内掲示やホームページなどでお知らせいたします。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。



昨年開催した公開行事の様子



『緩和ケア』の イメージは どんな感じ??

がん相談支援センター 高橋 直記

「がんの治療が終わった時の医療」や「終末期」を想像されるかもしれませんが、『緩和ケア』とは病気によってもたらされる、身体や心のつらい症状、経済的や社会的な負担を「緩和」する、つまり「和らげる」ことを意味します。がんと診断された時からさまざまな不安や心配ごとがあるかもしれません。がんと診断された時から「治療」と「緩和ケア」はがん医療の両輪と言えます。病気そのものから生じる痛みなども和らげることができれば、安心して治療に専念することができるばかりではなく、日常生活を楽に過ごせると考えています。

病気と言われると、身体的苦痛(疼痛やその他の身体的症状)、精神・心理的苦痛(不安、いらだち、孤独感など)、社会的苦痛(仕事上、経済上の問題など)、霊的苦痛(人生の意味、死への恐怖など)などいろんな痛みが生じるといわれています。病気と診断されて種々の治療を受けた患者さんや、治癒を目指す治療が困難な患者さんがその人らしく生活できるようにお手伝いします。

当院には緩和ケア病棟があります。

当院以外の医療機関で治療されている方、治療を終えられた患者さんに対しても、住み慣れたところで、大切にしたいことができるようお手伝い



有料個室

しています。

緩和ケア病棟のご利用を希望される際には緩和ケア外来(完全予約制)を受診していただく必要がありますので、患者さんもしくはご家族からかかりつけの医師にご相談ください。

(入院の対象となる方)

医師が積極的治療の継続が難しいと判断された方や緩和主体での治療を希望された悪性腫瘍(がん)の患者さんが対象となります。緩和ケア病棟では抗がん剤などの化学療法は行っておきませんので、現在行われている治療が終了してからの入院となります。

『緩和ケア』についてもっと知りたい、聞きたい方は、がん相談支援センターまでお越しください。

がん相談支援センター

場 所 受付⑤ 総合相談

電 話 (0897)37-7139(直通)

対応時間 病院診療日 8:30 ~ 17:30

相談の事前予約可能です

料 金 無料



どんどん上手になる職員による作品・患者さんが作った切り絵作品



緩和ケア病棟レクリエーションの一コマ

治療・通院中の方のための

お仕事出張相談をしています！

相談支援センター



病気や治療と向き合いながら、「働きたい」「仕事に復帰したい」と考えている方を対象に、ハローワークの専門相談員が病院に出張して就職に関する個別相談を行っています。

【相談内容の一例】

- 今の体調でできる仕事の探し方
- 治療と仕事の両立に関する不安や悩み
- 職場復帰や再就職の進め方
- 配慮が必要な事項の伝え方
- 各種支援制度のご案内 など

【対象】

- 長期療養中で、就職や職場復帰を希望されている方
- ご家族の方のご相談も可能です

【相談員】

ハローワーク 専門相談員
(就職支援ナビゲーター)
(病院でもハローワークでも相談可能です)

治療と仕事の両立、体調に配慮した働き方、職場復帰のタイミングなど、お一人おひとりの状況に応じて、丁寧にサポートします。

【事業所の方へ】

長期療養者の雇用や受け入れに関するご相談も可能です。
仕事内容の切り出し、配慮事項、支援制度の活用などについてご案内します。

【費用】

無料

【お問い合わせ】

住友別子病院 相談支援センター

TEL (0897) 37-7139

相談対応時間：10:00～15:00

※事前予約も可能です。お気軽にお問い合わせください。

病気になっても 住み慣れた地域で 自分らしい暮らしを！

相談支援センター



※生成AIの画像を使っています。

医療と介護の両方を必要とする方が住み慣れた地域で自分らしく生活できるように、地域における医療・介護の関係機関の皆さんと連携して在宅医療と介護を一体的に提供できるように取り組んでいます。今年度は4回コースでテーマを設け、それぞれのテーマに応じた医療と介護の基礎知識を相互に学び合う勉強会を開催しました。

高齢化が進み、在宅医療、地域医療に関する課題は多岐にわたりますが、多職種・多機関が連携することで、療養しながら少しでも安心して地域で

の生活が継続できるように相談・支援に努めたいと考えています。

ちょっとした心配ごと、困りごとがありましたら相談支援センターにお声かけください。

お電話での相談も可能です。

日時 病院診療日 8:30～17:30
(事前予約可能)

電話 相談支援センター 医療相談室
(0897) 37-7139(直通)



愛媛マラソン2026

リハビリテーション部 作業療法士 曾我部 侑人

2026年2月1日(日)、第63回愛媛マラソンが開催されました。愛媛県庁前をスタート地点とし、午前10時の号砲とともに11,131名のランナーが一斉にスタートし、10,000人が完走しました。天候は晴れのち曇り、気温は最高8℃最低0℃と寒さを肌で感じる中、ランナーはそれぞれの目標に向けて走り出しました。

私は今回で2回目のフルマラソンとなりました。昨年は落選し出走できなかったため、2年越しに友人との約束を果たすべく、初めて仮装姿でのフルマラソンに挑戦しました。住友別子病院リハビリテーション部からは3名のスタッフが当選・出走

し全員が無事に完走することができました。

レース序盤は順調に走行していましたが、20kmを過ぎた頃から足の痛みや気分不良が出現したため、残り時間を逆算し「楽しく時間内完走する」ことへ目標を切り替えました。終盤には名物である「平田の坂」で何度も心が折れそうになりましたが、沿道からの途切れることのない暖かい声援やハイタッチ、太鼓や吹奏楽による応援に大きく励まされました。

疲労によりペースは落ちたものの、声援に支えられ、友人とともに笑顔でフィニッシュラインを越えることができました。安堵とともに、他では味わうことのできない達成感と充実感を得ることができました。来年も走ることができるのであれば、自己記録更新を目指したいと思います。

参加されたランナーの皆さん、そして大会運営に携わったすべての関係者の皆さんに深く感謝申し上げます。

